令和4年度　マリア学院　市原マリア・インマクラダ幼稚園自己評価結果

1　本園の教育目標

神さまと周りの人たちから愛されていることに気づく（宗教教育）

幼稚園生活の体験を通して　自分自身が好きになる（モンテッソーリ教育）

集団生活の出会いと関わりを通して　神様と周りの人々を大切にする（平和教育）

2　本年度　重点的に取り組む目標・計画

・創立者の精神を理解し誇りをもって働く。

・コロナ禍だからできないではないではなく工夫する。

・子ども一人ひとりのために日々祈り、何が援助でき成長を見守れるかを考える。

3　評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
カトリックの幼稚園として	「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。」 コリントの信徒への手紙二4章18節 目に見えるものは本質ではなく。本質を大切にするよう心がかえて。
幼稚園教諭として	一人の人間として模範となれるよう心掛け、常に学びを忘れないように心がけた。
モンテッソーリ教育	子どもの観察をよくし環境作りのためにも子どもを知ることに努めるた。
宗教教育	神さまとの交わりの中で祈ることの大切さ、信頼することの難しさを感じながらも祈りながら過ごした一年であった。
平和教育	世界を知り、世界のために祈ることの大切さがよくわかった。宗教教育・モンテッソーリ教育があってこそ平和教育が実践されることもよくわかった。
安全管理	火災、地震、自然災害などを想定し子どもたちの誘導や安全確保の話合いをする機会を設けては、定期的に防災訓練を実施した。遊具の安全点検も職員で行い意識していった。
保健管理	コロナ鍋でも子どもたちの身体を作っていき体力向上また免疫力がつくように家庭を連携をとって努めていいた。
子育て支援	預かり保育の充実を計った。未就園児クラス様々なクラスの開催と園庭開放も行った。カウンセラー等による子育て相談等を実施した。
学校・地域との連携	コロナ鍋、様々なイベントや交流が変更されたが去年よりが活動の幅が増えた。

４　園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・コロナ鍋だからこそ行事の工夫をして子どもの体験を去年より見直し形を変えた。
・園アプリを取り入れてアプリで連絡を取れるようにした。ブログなどでも園の様子を発信した。
・宗教教育がコロナ禍でいかに必要なのかを理解した。

５　今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育目標	教育理念である子どもたちの「知性の源」を育てることに使命をもって努める。
子育て支援	園の情報発信をも積極的に行い幼稚園でできる子育て支援を発信していく。
モンテッソーリ教育	子どもたち一人ひとりが「こどもがどう学ぶか」育むための配慮について考えモンテッソーリ教育を実践する。
安全体制	幼稚園の生活が安心・安全の場所になるように職員の意識も怠らず職員同士連携をとっていく

６　学校関係者の評価

保育内容評価について、学校関係者10名の意見を集約
・クラス便りが紙からアプリ配信になり、紙の方がよかった。
・先生方が子どもたちを温かく見守ってくださっているのがよくわかった。
・先生方がとても一生懸命に子どもたちと関わってくださっている。
・園庭でこどもたちが伸び伸びと遊ぶべる時間も増えた様子が子どもからもうかがえる。

７　財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められる